教育資料室だより

No.38　令和8年(2026).10.1

発行　桐生市教育資料室

桐生市小曽根町3－30(桐生市教育センター内)

電話　0277(46)6191

歩いて 見つけて 味わって

ふるさと探訪 (6)

桐生市内文化施設とのコラボ企画



桐生のキュウ公共施設

その2

前回のコラボ企画で取り上げた、桐生市近代化遺産絹撚記念館の令和７年企画展**「新市庁舎完成記念桐生のシン公共施設」**のその2です。その１では、市役所、学校給食共同調理場、消防署の今と昔を紹介しました。今回は体育館や陸上競技場などスポーツ施設の移り変わりを見ていくこととしました。因みに桐生市民プール(相生町運動公園内)の開設は、昭和48年(1973)６月18日で、まだ現役です。

協力　桐生市近代化遺産　絹撚記念館(写真提供含む)

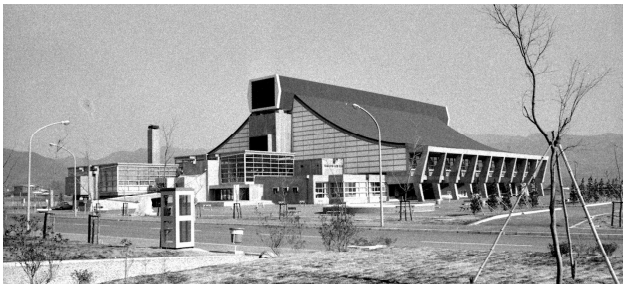
参考　「桐生市教育史下巻」「ふるさと桐生のあゆみ」
「桐生市歴史年表(図書館ボランティアの会編)」
「桐生市ホームページ」

○市民体育館(桐生ガススポーツセンター)





新市民体育館は平成30年(2018)９月から令和２年(2020)12月まで約２年半の工事期間を経て、令和３年１月８日に開館しました。桐生瓦斯株式会社が令和８年12月までネーミングライツ契約を結んでいます。メインアリーナはバスケットコートなら２面、バレー３面、バドミントン10面の面積があり、２階には1000席の観客席と１周約205mのランニングコースがあります。他にバスケット１面(バレー１面、バドミントン４面)のサブアリーナも併設されています。



旧市民体育館については、教育資料室だよりNo.８[令3(2021).7.1]「あの頃この街」で特集を組んでいます。



旧市民体育館でのマーチングフェスティバル
猛暑の８月末　エアコンなしでも頑張る小学生
平成29年(2017)撮影

○カリビアンビーチ(桐生市新里温水プール)



平成10年(1998)４月１日、桐生市新里町野[の]にオープンした関東最大級の全天候室内温水プールです。「なみのプール」「ながれるプール」「ロデオマウンテン」「ウォータースライダー」など子供から大人まで楽しめる設備が整っています。「海なし県に海を！」のスローガンの下に建設された施設で、隣接する桐生市清掃センター(写真右側)の余熱を利用して常夏を演出しています。国道50号線西久保町(伊勢崎市)交差点を大間々方面(県道73号＝伊勢崎大間々線)へ約３ｋｍほど北進したところにあります。





昭和40～50年代、街なかにある50m級の大きなプールと言えば、昭和39年にオープンした桐生市東７丁目(開設時は清水町)の東スポーツセンター(通称＝群スポ)でした。奥の建物にはアイススケート場がありましたが、老朽化のため令和５年(2023)３月31日をもって閉鎖されました。プールの存続時期は調査中です。



建設中の桐生市民プール　撮影年不明。

○陸上競技場
(森エンジニアリング桐生スタジアム)

陸上競技場は昭和39(1964)3月、桐生商業高校の北隣(元宿町)に開設されました。老朽化に伴い、令和元(2019)年12月から令和３年(2021)３月まで改修工事を行い、３月20日、日本陸連３種公認陸上競技場として新装オープンしました。８レーンの全天候400mトラックを備え、692席のスタンド観客席と芝生席があります。





青色のトラックに張り替えられ、前面がガラス張りになりました。(隣接する浄水場の高架水槽配水塔が見えます)



中学生の大会の様子　撮影年不明ですが、高跳びの着地場所が砂場です。トラックも土(アンツーカー?)でした。



平成25年(2013)の小学生陸上記録会　トラックは全天候型に、高跳びの着地場所はマットに変わっています。